

10/20 水
2021 18:30 - 21:00

都市政策・地域経済コース特別シンポジウム「自動運転とスマートシティによる地域課題解決をめざして(2)」

シンポ開催形態はオンライン。サイト <https://forms.office.com/r/5SttLLfGnG> の「都市政策・地域経済②」から必ずお申し込みください。こちらからご連絡します。連絡がいかない場合・お問合せは konagaya@osaka-cu.ac.jp

【趣旨】2020年代に入り、現在の都市や地域は、(1) 高齢化時代の足の問題(通院や日常生活上の移動のオンデマンド化)、(2) 感染症時代におけるリモート化・個人化に対応し移動も大規模な公共交通から小規模の個人公共交通へ、(3) AI・5Gの普及によるDX(デジタル化)・新産業振興の必要性、(4) マイクロツーリズム(小規模観光)による地域活性化、などの課題に直面しており、人手不足の観点からも、自動運転、それを中心に組み込んだスマートシティ概念の普及が、多くの地域課題の解決にむけて期待されています。今回、単なる実証実験ではなく、この方向の現実の運用にむけて動き出した先進的な取り組みのご担当者に来ていただき、楽しくディスカッションをしたいと存じます【趣旨説明】小長谷一之(都市経営研究科教授)。



(ZMPの取組み)「自動運転ロボット×something=まちの賑わいづくり」への取組み。姫路市は歩きたくなるまちなかを目指し、ウォークブルの推進&観光促進に取組中です。この活動の一つである自動運転ロボットとデジタル技術を組合せた新たな価値づくりの活動状況をご紹介します。【パネリスト】(株)ZMP 姫路所長、姫路ウォークブル協議会会長 大内裕史氏 1982年～自動車のマイコン応用電子制御や自動運転を含む高度な車両制御システムの開発・量産化を実施、2020年～自動運転ロボット&活用システムの開発・実用化に取組中。移動体が大好き。

(学研都市の取組み) いちはんな公道走行実証実験プラットフォーム(K-PeP)について 自動運転等の新技術や新交通システム確立に向け、いちはんな学研都市の様々な資産を活用した日本初の企業乗合型・住民参加型の公道走行実証実験プラットフォーム K-PeP に取り組んでいます。【パネリスト】(公財)関西文化学術研究都市推進機構イノベーション推進室ディレクター井上光二氏 1983年(株)島津製作所入社。2005年(株)島津デバイス製造を設立し代表取締役社長に就任。デバイス事業を推進。工学博士。専門はX線物理・画像処理。島津製作所退職後2017年から現職。モビリティ・エネルギー分野でマーケットを見据えたサービスを含むものづくりを支援している。

(東近江市の取組み) 中山間地域における道の駅を拠点とした自動運転サービスの可能性 本年4月23日から片道2.2kmを往復する自動運転サービス本格運行を開始。週4日(水・金・土・日曜日)に、午前9時から午後3時まで1日6便(予約制)を運行中。同市が運行するコミュニティバスの運行を補完するダイヤ設定としている。【パネリスト】東近江市 都市整備部 公共交通政策課 課長補佐 須田良行氏 2016年度から公共交通を担当。今年で6年目。2019年度の実証実験から自動運転導入に携わる。

【ご挨拶】遠藤尚秀(都市経営研究科長) 会計専門職大学院・自治大学校・福知山公立大学地域経営学部等で会計論等について教鞭をとりつつ国家/地方公務員・地方議員向け研修、包括外部監査等に携わる。グッド・ガバナンスを参考にしつつ、地域経営論を研究。

11/12 金
2021 18:30 - 21:00

都市行政コース特別シンポジウム「温暖化の人々の生活への影響：自治体の対応を考える」

シンポ会場は大阪駅前第2ビル6F文化交流センターホールを予定、状況によりオンラインになることもあります。サイト <https://forms.office.com/r/5SttLLfGnG> の「都市行政③」から必ずお申し込みください。こちらからご連絡します。ご連絡がいかない場合・お問合せは goishi@osaka-cu.ac.jp

【趣旨】近年、気候変動がますます目に見えるかたちで人々の生活に不均等な影響を及ぼしています。この危機に自治体はどのように対応できるか、具体的な課題と方策を議論します。

【報告者】 横浜市政策局共創推進課 関口昌幸氏 2017年より子育てや介護分野におけるオープンイノベーションの取組を推進。持続可能な未来をつくるため、リビングラボの取組を通じて形成された「サイキュラーエコミーplus」(地域循環型経済)という社会経済ビジョンを横浜から世界に向けて発信中。



【報告者】一般社団法人つくりい東京ファンド代表理事、認定NPO法人ビッグイシュー基金共同代表、立教大学大学院客員教授 稲葉剛氏 著書に『貧困パンデミック』(明石書店)、『閉ざされた扉をこじ開ける』(朝日新書)、『コロナ禍の東京を駆ける』(共編著、岩波書店)など。



【報告者】大阪市立大学大学院文学研究科准教授、菅野拓氏。博士(文学)。専門は人文地理学、都市地理学、サードセクター論、防災・復興政策。近著に『つながりが生み出すイノベーション-サードセクターと創発する地域-』(単著、ナカニシヤ出版)。



【報告者】門川博子氏 2020年3月、大阪市立大学大学院都市経営研究科修了。京都市職員。現在、監査事務局にて財務監査を担当。週末は、趣味と運動を兼ねて京都市内各地の甘味処を目指してランニングするなどエコな生活を実践中?



【司会】五石敬路(都市経営研究科准教授) アジア開発銀行研究所、財団法人東京市政調査会を経て現職。昨年度、修了生の論考を多く掲載した『子ども支援とSDGs』(明石書店)と『大都市制度をめぐる論点と政策検証』(日本評論社)を出版。

11/17 水
2021 18:30 - 21:00

都市政策・地域経済コース特別シンポジウム「人と仕事のマネジメントの方法論—行政に携わる者への箴言—」

シンポ会場は大阪駅前第2ビル6F文化交流センターホールを予定、状況によりオンラインになることもあります。サイト <https://forms.office.com/r/5SttLLfGnG> の「都市政策・地域経済④」から必ずお申し込みください。こちらからご連絡します。ご連絡がいかない場合・お問合せは michihiko-sato@osaka-cu.ac.jp

【基調講演】元大阪府副知事 小河保之氏。現在はまちづくりや防災についてのコンサルタントや研修などの活動を実践。1969年京都大学卒業後大阪府庁入庁。2007年副知事就任。この間、大阪府庁本庁と出先、他府県で6年間勤務。兵庫県時代には阪神淡路大震災を経験。副知事として3人の知事に仕え2015年退任。

【趣旨】行政経験豊かな講師が、仕事を通して体得された「人と仕事のマネジメント」を講演いただきます。自己、仕事、リーダーの3つの視点からのマネジメントのあり方と、順境・逆境・失意時の心得についての教訓を、経験談を交えて伺います。

【司会】佐藤彦彦(都市経営研究科教授) 元大阪市計画調整局長、元堺市副市長。京都大学工学部卒、編著『まちづくりイノベーション』(日本評論社)共著『日本の都市づくり』(朝倉書店)。



詳細は <https://www.gsum.osaka-cu.ac.jp/>

11/29 月
18:30
2021 -21:30

都市行政コース特別シンポジウム

「子ども・若者支援と重層的支援体制のあり方」

シンポ会場は大阪駅前第2ビル6F文化交流センターホールを予定、状況によりオンラインになることもあります。サイト <https://forms.office.com/r/5SttLLfGnG> の「都市ビジネス④」から必ずお申し込みください。こちらからご連絡します。連絡がいかない場合・お問合せは goishi@osaka-cu.ac.jp

【趣旨】近年の社会福祉法改正により新設された重層的支援体制をどうつくるか。現場の第一線で活躍しながらその知見をもとに進めている研究をふまえ、それぞれの持ち場である子ども食堂、子育て世代包括支援、キャリア教育について福祉・教育・労働・保育といった分野を横断した支援体制をどう構築するか、現状と課題をディスカッションします。【報告者】塩川優（社会福祉士・修了生）、松本学氏（ブレンヒューマニティー理事長）、川村信子氏（指定保育士養成校専任講師、保育園代表）【コメンテータ】山野則子氏（大阪府立大学学長補佐・教授）【司会】五石敬路。



【司会】五石敬路（都市経営研究科准教授）アジア開発銀行研究所、財団法人東京市政調査会を経て現職。昨年度、修了生の論考を多く載せた『子ども支援とSDGs』（明石書店）と『大都市制度をめぐる論点と政策検証』（日本評論社）出版。



【報告者】塩川悠氏（社会福祉士・修了生）2020年大阪市立大学大学院創造都市研究科修士課程修了。社会福祉行政職員として、生活保護ケースワーカー、生活困窮者自立支援事業を経て、高校中退予防事業を実施。高校生と出会ううちに、教育から職業への移行を支える社会政策が必要と考えるようになり、産官学が連携した実践型キャリア教育について研究した。

【報告者】松本学氏（ブレンヒューマニティー理事長・修了生）大学在学中より青少年の支援事業に従事。一般企業を経て、2015年より特定非営利活動法人ブレンヒューマニティーでの活動に従事。2018年理事長に就任。同年大阪市立大学大学院創造都市研究科修士課程修了。

【報告者】河村信子（指定保育士養成校専任講師、保育園代表、子育てひろば運営）社会福祉法人評議員・心理職を経て現職。厚生労働省子育て支援員・放課後児童支援員研修講師、保育士幼稚園教諭キャリアアップ研修講師、カウンセラー（公認心理師、保育士、幼稚園教諭一種免許）大阪市立大学大学院都市経営研究科博士後期課程に在籍。

【コメンテータ】山野則子（大阪府立大学学長補佐／人間社会システム科学研究科教授）専門は子ども家庭福祉。文部科学省第9期中央教育審議会委員、内閣府子どもの貧困対策検討委員会構成員／貧困状態の子供の支援のための教育・福祉等データベースの構築等に向けた研究会座長、厚生労働省社会保障審議会などを歴任。



12/8 水
18:30
2021 -21:30

都市ビジネスコース特別シンポジウム

「中小企業 DX のために AI を実装する」

(1) MA の意義と課題、(2) モノづくりの AI 化、
(3) 中小企業の AI 化の課題とその克服

シンポ会場は大阪駅前第2ビル6F文化交流センターホールを予定、状況によりオンラインになることもあります。サイト <https://forms.office.com/r/5SttLLfGnG> の「都市ビジネス③」から必ずお申し込みください。こちらからご連絡します。連絡がいかない場合・お問合せは chika@osaka-cu.ac.jp

【趣旨】第三次AIブームが数年前に到来し、現在は、AIを実装し、具体的に成果を出す時期にきています。しかし、中小企業のAI導入は遅れています。そこで、中小企業のモノづくり企業と広告業のなかでのAIの実践事例を通じて、その課題と将来像を探ります。



【パネリスト】廣見剛利氏
大阪市内で、広告業を営む。(株)マーケットデザイン代表取締役。セールスフォースのAIエンジンを活用して、マーケティングオートメーション(MA)を社内導入し、大きな成果をあげている。



【パネリスト】中村芳信氏
明石市で、自動車タイヤの金型製造・メンテナンス業、新興金型工業(株)の代表取締役。住友ゴム工業と大阪市立大学大学院との共同研究で、金型のAIに関する故障診断システムの開発中。



【趣旨説明・パネリスト】近勝彦（都市経営研究科・都市ビジネスコース教授）情報経済論、e-マーケティング、ミクロ経済論などを担当しています。情報経済および情報社会を研究テーマとしています。『IT資本論』、『創造社会のデザイン』等著書多数。



【司会】梅原清宏（都市経営研究科・都市ビジネスコース教授）ICTビジネス論や経営情報論などを担当しています。中小企業経営及びその情報化を実務面から研究しています。